

2014年8月吉日

2014年

休館日

月曜日、ただし11月24日(月・祝)は
開館、11月25日(火)休館

11月13日(木)～
12月23日(火・祝)

コレクション展

誰が袖図

描かれたきもの

根津美術館
NEZUMUSEUM



誰が袖図屏風 6曲1双(部分) 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

Tagasode Screens The Kimono as Painting Theme

「これは誰の袖なのか。そんな風変わりな名で呼ばれる絵があります。衣桁や屏風にたくさんの衣裳を掛け並べた様子を描く「誰が袖図」です。江戸時代のはじめ、17世紀前半に多く制作されました。

「誰が袖図」には、衣裳だけではなく、遊女とその身の回りの世話をする見習いの少女を描きこむ作例があります。このことは、描かれる情景が近世初期の遊里を舞台とすることを想像させます。「誰が袖図」は、風俗画の一種なのです。

しかし「誰が袖図」という画題には、それ以外にもいくつかの由来があります。古来、衣裳によって室内を飾る風習がありました。「誰が袖図」は、そうした現実の「衣桁飾り」を絵にしたものと見ることが出来ます。

一方、「誰が袖図」という魅力的な名称のもとになった「色よりも香こそあはれとおもほゆれ 誰が袖ふれし宿の梅ぞも」という和歌にもつき、梅の枝と香炉に、たたんだ衣裳を添えた文様の工芸品がのこされています。「誰が袖図」にもしばしば、香りにまつわる道具が描きこまれます。

「誰が袖図」には、秘められた室内空間を覗き見て、そこに掛けられた美しい衣裳を愛で、薫きしめられた香りをイメージし、ひいてはそれを着る人の面影をしのぶ、そんな多層的な趣向が備わっているのです。

本展は、華やかで、かつ少し謎めいた、当館が所蔵する3件の「誰が袖図屏風」を中心に、やはり描かれた衣裳の美しさを見所のひとつとする美人画などもあわせ、近世の風俗画をお楽しみいただく展覧会です。

「誰が袖図 - 描かれたきもの -」



誰が袖美人図屏風
6曲1双 日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



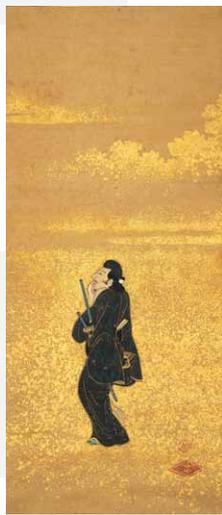
右隻は、衣桁に美しい小袖がかけられ、香炉や香合、文箱を添える。左隻には男物の羽織や袴、刀が見え、その前で禿(見習いの少女)が遊女に文を渡す素振りを示す。「誰が袖図」と遊里の結びつきをうかがわせる作品。



誰が袖図屏風
6曲1双 日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



衣桁には、右隻の亀甲つなぎの唐織から左隻の辻が花染を思わせる桜花文様の振袖まで、さまざまな意匠のきものが掛けられている。双六盤や、硯箱と冊子が置かれた文机もあわせ、「誰が袖図」には静物画の一面がある。



重要美術品

風俗図
3幅
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

禿をともなう遊女と、彼女の様子をうかがう二人の男を描いた三幅対。唐輪髻に鉢巻き姿の遊女は、文字をデザインした小袖に、青地に波と水車を配した大胆な打掛を羽織る。

美人図 宮川長春筆
1幅
日本・江戸時代 18世紀
福島静子氏寄贈
根津美術館蔵

18世紀のはじめに活躍した浮世絵師・宮川長春の作品。遊女が右手で褌をとる。波に海松文様を散らした寒色系の打掛に、下からのぞく赤地に格子と桜の小袖が映える。



重要美術品

桜下蹴鞠図屏風
6曲1双のうち1隻
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

蹴鞠に興じる公家や僧侶を描く。みな洒落た衣裳を身につけている。ながく描き継がれた図様で、衣裳は慶長期(1596~1615)頃の様相を示しているようである。



同時開催

展示室 2

「婚礼衣裳 —旧竹田宮家所蔵品 を中心に—」

旧竹田宮家より寄贈された華麗な婚礼装束を初公開し、併せて江戸～明治時代の武家、町人の花嫁衣装など、計5件を展示します。



からぎぬ もしよぞく
唐衣・裳装束
一襲 日本・昭和9年(1934) 根津美術館蔵

明治天皇第六皇女・常宮昌子内親王のご令息
竹田恒徳王に嫁いだ三條光子さまが着用された婚礼装束。一般的には十二単と呼ばれる。



きりほうおうもんうちかけ
桐鳳凰文打掛
1領 日本・明治時代 19世紀 根津美術館蔵

赤地に、細かい絞り染めと金糸や色糸の刺繍で、桐の葉と鳳凰を華やかにあらわす。同文様の白地、黒地の3領で一揃えとして用いる。

展示室 5

「館蔵の名碗20撰」

館蔵の茶碗の中から、天目、青磁、高麗茶碗、志野、織部など、そして仁清作の茶碗を選びました。それぞれの個性をお楽しみください。



あんなんそめつけとんぼちやわん
安南染付蜻蛉茶碗
1口 ベトナム 16～17世紀 根津美術館蔵

口縁を歪めた小さな茶碗は、黄色味を帯びた釉に蜻蛉を大きく描く。滲んだ黒灰色の青料が魅力的である。



しがらきちやわん みず こ
信楽茶碗 銘 水の子
1口 日本・桃山時代 16世紀 根津美術館蔵

信楽の土は黄味や紅色に変化して焼け、土に含まれた長石粒が表われて景色となる。それを水底から湧きあがる水の泡に見たてている。

展示室 6

「霜月の茶」

霜月は陰暦11月の異称です。冬の夜長を灯火の下で楽しむ夜咄や、行く年を想う歳暮の茶会にふさわしい茶道具約20件の取合せ。



せとたいかいちやいれ せつき
瀬戸大海茶入 銘 節季
1口 日本・室町時代 16世紀 根津美術館蔵

丸く平たい形をした茶入は、大海と総称される。この作品はことに扁平な姿が特徴で、年末を意味する「節季」の銘は小堀遠州が名付けた。



たけしゃくはちはないけ こぞ せんぞうたん
竹尺八花生 銘 去年 千宗旦作
1口 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

竹を筒形に切った花生で、利休に始まる千家の三代目・宗旦の作。やや低めに節があり、その上の歪みが作品に風情を与えている。

関連プログラム

- 【講演会1】 「誰が袖図と近世初期の小袖」
日時 11月22日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 丸山 伸彦氏(武蔵大学教授)
- 【講演会2】 「あらためて井戸茶碗の謎に迫る」
日時 12月13日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 西田 宏子(当館 顧問)
※会場はいずれも根津美術館講堂(定員各130名)
- 〈申し込み方法〉 往復葉書に、参加を希望される催事名(「講演会1」または「講演会2」)と住所・氏名(返信用にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「誰が袖図―描かれたきもの―」展講演会係宛にお申込みください。
*「講演会1」は11月8日(土)、「講演会2」は11月29日(土)締切(当日消印有効)
*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復葉書でお申込みください。
- 【スライドレクチャー】 日時 12月5日(金) 午後1時30分から約60分 根津美術館講堂(先着130名)
*事前申し込みは不要。
- 【ギャラリートーク】 日時 11月14日(金) 午前11時00分から約40分 展示室1「誰が袖図―描かれたきもの―」
*事前申し込みは不要。午前10時より美術館受付にて整理券を配布いたします(お1人につき1枚)。ご希望の方はお申し出ください。(先着35名) 開始10分前に、整理券をお持ちのうえ、ホール階段下へお集まりください。

※講演会・スライドレクチャー・ギャラリートークとも聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

- 【展覧会名】 コレクション展「誰が袖図―描かれたきもの―」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2014年11月13日(木)～12月23日(火・祝)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし11/24(月・祝)は開館、11/25(火)は休館
- 【入館料】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
- 【アクセス】 2014年9月20日(土)～11月3日(月・祝)「名画を切り、名器を継ぐ―美術にみる愛蔵のかたち―」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売。
地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



特別展

どうぶつらいさん 動物礼讃

―大英博物館から双羊尊がやってきた！

2015年

1月10日(土)～2月22日(日)

右：重要文化財 双羊尊 中国 前13～11世紀 根津美術館蔵
左：双羊尊 中国 前13～11世紀 大英博物館蔵
©The Trustees of the British Museum. All rights reserved.

世界にふたつしかない「双羊尊」が並ぶ空前の展覧会。
実在・空想上の動物モチーフを表した絵画や工芸作品を展示します。

リリース・広報の
お問い合わせ

担当：所、村岡、羽田
TEL:03-3400-2538(直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp